

編集後記

今年は6月から猛暑が始まり、現在、お盆も明け、既に8月後半にもかかわらず、相変わらず全国で体温超えの日々が続いています。予報では秋も高温が続くとのこと。私自身、昨今の気候変化に、心も体もなかなか対応できないこの頃です。

新潟大学眼科が担当させていただいた第129回日本眼科学会(日眼総会)は、4月の東京での現地開催と、5月から7月までのオンデマンド配信を併せて、無事、終了することができました。ご参加、ご支援いただきましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。日眼総会と臨床眼科学会は日本の2大眼科学会で、特に日眼総会は今回で第129回と、臨床系の医学学会では最も長い歴史と伝統を持つ学会です。そんな日眼総会は、主管校の私たちが扱うには規模が大きすぎて、準備段階で、どんなビジョンを描けば良いのかがまったくわかりませんでした。色々考えたあげくに、各方面から助言をいただいて、できることをいろいろと試みてみよう、次の世代につながる日眼総会を目指そうということになりました。眼科学会というのは学術的な議論の場であるだけでなく、今後の眼科の在り方を模索する場でもあると思います。さまざまな提案があって、さまざまな議論につながっていくもの

だと思っています。そのような意味で、今回の日眼総会は日本の眼科にとって良い機会を提供できたのではないかと密かに自負しています。ありがとうございます。

さて、『眼科』第67巻第9号をお届けします。今回の特集は「白内障手術の最先端」です。白内障手術は眼科診療の基本です。超高齢化の日本において、健康寿命の延長や高齢者のQOL維持に、眼科医は白内障手術を通して多大な貢献をしていると言って良いと思います。近年はますます医療におけるQOLへの関心が高まり、ただ手術によって矯正視力を改善させるだけでなく、より便利で快適な術後を提供することが求められています。ただ、視覚はひとつの感覚であり、同じことが生じても感じ方は個々で大きく違います。いろいろな新しい技術とともに、それぞれの患者さんにとってより良い視覚を提供したいものだと思います。また、本号ではアレルギー性結膜炎、角膜クロスリンキング、眼球突出の3件の綜説が寄稿されています。いずれも日常臨床で身近な話題です。是非、参考にしていただきたいと思います。

今月号の『眼科』も、興味深い内容が満載です。ご一読いただければと思います。(福地健郎・記)

編集：後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均・根岸一乃・福地健郎
編集顧問：小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・飯島裕幸・坪田一男・富田剛司

「眼科」 第67巻 第9号 9月号

2025年9月5日発行(毎月1回5日発行)

定価 3,300 円(本体 3,000 円+税 10%)

年間講読料金

定価 48,950 円(本体 44,500 円+税 10%)

〔年間 13 冊(臨時増刊号を含む)の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 (株)文京メディカル 03 (3817) 8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(Tel: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。